土岐市ネイチャーセンター
☎㊾5144

陶史の森に早春を告げる黄金の花 －マンサク－

２月も半ば過ぎになるとマンサクの花が陶史の森を彩り始めます。長いひものような花弁をつけた黄金色の花は山中でもすぐに分かります。時には花枝に淡雪が積もった風景を見ることもでき、華やかではありませんが、春の訪れが近いことを静かに知らせてくれる花です。

マンサクはマンサク科の耐寒性をもつ落葉小高木で、本州、四国、九州の山地によく見られ、特に里山近くの雑木林に多く見られます。春になると葉や芽が出るより先に開花し、黄色い花が数個かたまって咲きます。果実は花と同時に結実しますが、あまりに地味なため早春以外は注目されません。

「マンサク」の名は、タムシバ、コブシ、クロモジなどとともに一番初めに花が咲くので「先(ま)ず咲く」という意味から付けられたという説と早春に山腹に黄金色で一面に花が咲くことから秋の「豊年満作」の意味から付けられたという説があります。

マンサクの枝はよくたわみ、折れない弾力性があるので、枝条(しじょう)をよじって繊維をほぐし、薪をしばったりしていました。世界遺産として有名な白川郷ではこのマンサクを「ネソ」と呼び、何百本もの「ネソ」を使って柱や桁をしばって合掌造を支えています。

冬の名残がある陶史の森でもいよいよマンサクの花が咲き始めます。さまざまな命がきらきら輝く春はもうそこまで来ています。

森の日記　陶史の森の冬景色

12月16日(水)

師走の16日、強い寒波が日本を覆い各地に大雪をもたらしました。陶史の森でも雪が10cm 程積もりました。最低気温－５℃と真冬の様相となりました。景色も一変し、ネイチャーセンター周辺や林泉の池周辺も美しい冬景色となりました。紅葉の美しい時は過ぎ、幻想的な白一色の陶史の森になった時でした。この冬は、例年並みの寒さになるという気象庁の予報もあり、幾度か雪に包まれる陶史の森となりそうです。

教室のご案内

２月

バードウオッチング（要申込　定員10名）

２月28日(日)　午前９時～11時30分

早春の野鳥を観察します。

陶史の森ネイチャーセンター横、林泉の池堤防へお集まりください。　(雨天中止)

３月

バードウオッチング（要申込　定員10名）

３月28日(日)　午前９時～11時30分

春の野鳥を観察します。

陶史の森ネイチャーセンター横、林泉の池堤防へお集まりください。　(雨天中止)

ネイチャーセンターでは、双眼鏡や野鳥図鑑を貸し出しています。気軽に声を掛けてください。

※新型コロナウイルスの感染状況によっては、中止になる場合もあります。

陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。